

令和３年度淀川区区政会議第１回コミュニティ力向上部会議事要旨

日 時：令和４年２月９日（水） 午後６時３０分～午後８時１４分

場 所：淀川区役所 ６階 会議室

出席者：

- ・ 委員 ７名（９名中）
浅井委員、大西委員、大屋委員、寺田委員、西岡委員、水本委員、山本委員
[欠席委員：中井委員、英委員]
- ・ 区役所
久保総務課長、田口政策企画課長、畑中市民協働課長、
山崎市民協働課長代理 ほか

内 容：

- １．開 会
- ２．政策企画課長あいさつ
- ３．議 題
 - (1) 議長、副議長の選出
 - (2) 要援護者を地域で支える仕組みづくりについて
 - (3) 地域活動の広報について
 - (4) 淀川区の魅力発信について
- ４．その他

資 料：

【当日配布資料】

- ・ 次第、進行表
- ・ 区政会議部会名簿、座席表
- ・ 配付資料一覧
- ・ ご意見票
- ・ 淀川区区政会議 全体会議開催にかかる日程調整について
- ・ よどマガ２月号
- ・ 暮らしの便利帳（淀川区）

【事前配布資料】

- ・ (資料１) 令和３年度第１回コミュニティ力向上部会
ご議論をいただきたい内容、ご意見をうかがいたい内容

1. 開 会

2. 政策企画課長あいさつ

各委員及び担当課、区政会議運営事務局による自己紹介。

3. 議題

(1) 議長及び副議長の選出について

山本委員を議長、大屋委員を副議長とすることに決定。

(2) 要援護者を地域で支える仕組みづくりについて

○区政会議委員の皆様にご議論をいただきたい内容、ご意見をうかがいたい内容「要援護者を地域で支える仕組みづくりについて」について区役所より説明

- ・要援護者名簿は、地域で町会長一人が抱え込まず、いろいろな人に手伝ってもらうのがベストだと思いますが、何か役割を決めると負担になってしまい気が重くなります。また災害はいつ起こるかわからず、発災したときをお願いしている人が仕事等で近くにいないなど、必ず見守りができるとは限らない。この前の大阪北部地震のときも、私の地域では見守りができなかった町会が半分ぐらいありました。そういう状況で誰が見守るのかということも踏まえてみなさんのご意見をお伺いしたいです。(山本委員)
- ・私の町会では、昔からの長屋が多いので、何かあったときには、事前に決めていた筋の要援護者のところへ役員が声をかけに行くというシステムをとっています。平時の見守りとしては、民生委員と町会長と女性会会長で、三か月ごとぐらいに不定期で高齢者の見守りで回っていて、年末は必ず行っています。(水本委員)
- ・要援護者見守りの取組は、最初は手挙げ方式で始まり、その後、要援護者に同意書を送るようになりましたが、情報共有がうまくできておらず、地域の知らないうちにだんだん要援護者が増えていくという状況がありました。それが解消されうまくいきだすと、今度は個人情報の壁ができて、なかなか情報をオープンにしてもらえなくなりました。
私や地域の役員さんは、いつも同じ時間に通るおばあさんがきていない、何か歩き方がおかしい、徘徊しているかもしれない、というように、日々気を付けて様子を見るような形で見守りをしています。(西岡委員)
- ・全く動けない方と自分で動けるような方、どのレベルの人が要援護者名簿に載っているのですか？(寺田委員)

⇒要介護認定の区分や障がい手帳の等級で該当される方、難病指定を受けてお

られる方等を抽出した名簿があり、区社会福祉協議会に設置されている見守り相談室において、その方々の中から見守り希望の確認がとれた方を名簿に掲載し、地域にお渡ししています。淀川区では約8,000人のうち、名簿に載っているのは約4,000人です。(山崎市民協働課長代理)

- 全国の事例も参考にしながら、地域の特性に応じて、見守りをする人をある程度個別に決めておかないといけないのかと思います。あとは誰が連絡するかという連絡網をしっかりとしておくということが考えられます。まずは、淀川区地域福祉推進ビジョンと要援護者見守りネットワークの強化事業でしっかりと進めていただきたいと思います。(寺田委員)
- 毎年2月から3月にかけて、町会長、地域のネットワーク委員が集まり、各町会ごとで名簿をもとに、どこにどういう方が住んでおられる、亡くなられた方、施設に入られた方、認知症になっておられるのか等を確認し、名簿を更新しています。私の地域では、地域から、見守りが必要な方の情報が上がってくる事例が多く、行政の支援につないでほしいというケースも多いです。何か少し動きがおかしい、お話をしていて少し違う等の日頃からの気にかける気持ちがすごく大事で、それが要援護者の見守りにつながっていくのではないのかと感じています。(大屋委員)
- 地域の方が一番詳しいので、地域の方が行政に報告するという形をとっていった方がいいと思います。体の不自由な方は、健常者の方よりも何をするにしても時間がかかりますので、どうフォローしていくかというのが大事です。和歌山県だったかと思いますが、まだ安全であったとしても早めの避難をするようにしています。それも急にはできないので、日頃から訓練をして、避難経路も具体的に地図に印をつけて、それを共有するという形をとっているそうです。(大西委員)
- 私は民生委員で、要介護等の方を対象としたものとは別の名簿を使用して年に2回訪問することになっていますが、訪問されるのをとても嫌がる人もいます。嫌がられると2回目の訪問はできなくなります。
認知症で徘徊していたり、体の不自由な方がおられたら、どういうことで困っているかを理解し、助けようという気持ちを持たないと、みんなで見守るのは難しいと感じています。また、お困りの高齢者に声をかけようと思っても、高齢者を狙った犯罪に間違われなにかと思ひ、なかなか踏み込めないところもあります。(浅井委員)
- 見守りが必要な優先順位の高い方の情報を共有しておかないといけません。また、名簿の取扱いがわからない町会長もおられるようですので、行政と見守り相談室で、名簿をもとに地域にどういことを求めているのかがきちんとわかるようにしていただきたいと思います。

見守り希望の確認がとれた要援護者を町会長が訪問しても「あなたは誰？」となるケースもあります。区役所から援護してもらえられている要援護者の方もおられるので、自分の地域の町会の方も動いているという周知もこれからやっていかないといけないと思います。(山本委員)

- ・最初の頃は、災害時の要援護者名簿に支援者の名前が載っていましたが、今は支援者の記載が無くなっています。その支援者をまた募ることがすごく大事なことだと思います。(大屋委員)

⇒援護する方についても、地域とどういう形ですすめさせてもらったらいいのかを共有させてもらいながら作成していかないといけないと思います。(畑中市民協働課長)

- ・要援護者の個別避難計画は、連合町会が中心になったり、いろいろな団体が中心になっている等、地域により様々かと思います。5年をめどに作成していくことが義務付けられていますので、地域のお力を借りて、個別に議論を深めていきながら、策定していきたいと思います。またいろいろなご意見を頂戴できたらと思いますのでよろしくお願いいたします。(畑中市民協働課長)

(3) 地域活動の広報について

○区政会議委員の皆様にご議論をいただきたい内容、ご意見をうかがいたい内容「地域活動の広報について」について区役所より説明

- ・地域によっては、フェイスブックで、地域活動の様子を流したりしている地域もあります。(山本委員)
- ・地域の活動に参画してもらうには、子どもも親も一緒に参加できる子ども会が有効じゃないかと思います。子ども会の活動を通じて、他の活動に関心を持っていただければと思います。(浅井委員)
- ・淀川区に転入してこられた若い世代の方々に地域活動に参画してもらうためには、地元愛を育んでもらうことが大切で、そのために町内会で土日に催しをしていくのいいのではないかと思います。現役世代の人はどういうことを望んでいるかアンケート調査を試みるのもいいと思います。昔は蒲田神社で縁日があったのですが、最近はだんだんお祭りがなくなりさみしいなと思っているのですが、町内会ごとのまとまりが必要ではないかなと思います。(大西委員)
- ・町会単位での行事は本当にいいことだと思います。ところが、私の町会は校区外の小学校に行っている子どもたちがすごく多くなりました。今まで町会に入っていたのが、校区外の小学校に子どもが行っているの、こちらの子どもの会の行事には参加できない、町会はやめますというご家庭も出てきています。

地域で企画した行事を回覧したり、掲示板に貼っても、町会員である方以外はほとんど目にしません。隣近所の関係も希薄になっている中でどう周知していくのが課題です。

若い方がたくさん役員に入ってきていただけたら、いろんなアイデアも出てくるのですが、町会に入るメリットは何なのか、家の前の防犯灯は町会費で賄われていることをお知らせしますが、町会に入っておられない方には行き渡らず、そこがすごく難しいです。地活協は町会に入っておられない方も全員参加というのが趣旨ですが、そのところを疑問視される町会長さんもたくさんいらっしゃいます。町会をまず知ってもらって、地活協へというステップアップが必要かなと感じます。(大屋委員)

- 私の地域でも、町会は別に入りたくなかったら、入らないでもいいけど、防犯灯の電気代やランニングコストは、その分だけでも集金に行こうかという町会長もいらっしゃいますがそれも一つの方法かもしれません。何かアピールできるものを持っていき、たとえ100円でももらいに行くということをしていかないと、なかなか町会には目を向けてもらえないですね。(山本委員)
- 夜に町会で防犯のちょうちんを出されているのを見ました。防犯で助かる方もいらっしゃるだろうし、心強いという意味では、防犯カメラ等も含めて、そういった支援がされているということをよどマガでしっかりと伝えていただく。その中で、例えば自分がこういうことで助かった、非常に心強かったという体験談を投書いただいて掲載したり、また、投書いただいた中から抽せんで何かをプレゼントするようなことをしながら、関心をより高めていき、周知していくというように、もっと泥臭く考えていただけたらいいかなと思います。今は難しいと思うのですが、淀川区だけのケーブルテレビなどがあって、活動や運営内容をPRしたり周知することで、若い人たちにも、淀川区のいいところが広報できると思いますので、ぜひ工夫していただけたらと思います。(寺田委員)
- 区のホームページのトップから、地域情報のページに行くのが、道のりが遠いように思いますので、トップページの今は新型コロナの情報がでるところに、1回でも地域活動協議会のページに行くものを載せて、地域の役員が頑張っていることをもっと発信してもらえると、私達もやりがいがあります。最近、本当に珍しいが、近くの若いお兄さんが、地域の行事があったら手伝いたいと言ってきて、すごくうれしく感じています。よどマガ1面、区ホームページのトップページにどこで盆踊りをやっているのか等載せるような何か取組もしてもらえればいいと思います。(西岡委員)
- 西中島は、4、5年前までは、盆踊りや餅つきをする町会もありました。私の町会は、いつも春まつりと夏は地蔵盆をやっていますが、コロナで2年中止に

なりました。

地域で若い人に魅力を持ってもらおうといえ、区役所の1階にも配架されている地域の広報紙があり、西中島は全戸に配布をしていますが地道な取組としてあります。

区民まつりが2年できませんでしたが、コロナが収まりましたら盛大にやってほしいと思います。各地域が特色を持って店を出したり、子ども会の子どもみこしが18全地域出てくれます。お祭りが一番で、そういうことをしながら、魅力のある淀川にできたらと思います。(水本委員)

- ・熱心な子育て世帯から情報がどんどん広がっていくような手段を考えるようにしたほうがいいのかと思います。掲示板等ではなく、SNS、LINE等の活用でうまく発信していけないものかと思います。(山本委員)

(4) 淀川区の魅力発信について

○区政会議委員の皆様にご議論をいただきたい内容、ご意見をうかがいたい内容「淀川区の魅力発信について」について区役所より説明

- ・地域への愛着、地域の誇りがあるほうが淀川区に長く住んで、いろいろなつながりを持ちたいという思いにつながると 생각합니다。淀川区のブランド化という意味で、例えば、淀川区出身の有名人の方に区の観光大使になっていただき区を紹介していくことで、区民が愛着と誇りを持てるような住みたいまちにつながればいいと思います。(寺田委員)

⇒吉本の芸人で住みます芸人がいましたが、どのような活動をしているのでしょうか。(山本委員)

⇒区の広報誌「よどマガ!」で住みます芸人の連載をしています。各区同じようなことをやっているのかもしれませんが、もっと有効に活用をということですね。(田口政策企画課長)

⇒区民まつりや振興大会や表彰、交通安全の大会等に来てもらったりしているのですが、区民には広く伝わっていないかもしれません。(山本委員)

- ・淀川区の場所がどこにあって、どういうものがあるということを前面に出して発信していけば、もう少し淀川区がわかってもらえるかと思っています。

毎月この日にするという定例のイベント・目玉を作ると、淀川区はこういうことをしているというのが広まっていくのではないかと思います。(大西委員)

- ・十三は結構ブランド化されているのではないかと思います。東京の方もよく十三は知っているということを聞きます。淀川の花火大会は民間がやっていて、公費が使われなくても、十三の商人の人達が出資して、これだけのことができるという魅力のある一大イベントだと思います。梅田に取って代わって新大

阪駅が中心という形で、ビルもたくさん建ってきていますので、どんどん発信したらいいのかなと思います。(大屋委員)

- 淀川区で魅力と言うと、交通の便がいいというのが一番だと思います。
すごく大きな話になりますが、スポーツのプロ野球やクラブチームにきてもらい、魅力を発信できないかなと思っています。
昔のような十三の庶民的なものが薄れてきていると思うので、庶民的な下町みたいな感じのまちができたらと思います。(西岡委員)
- 何年か前に淀川の名所をよんだ「淀川いろはかるた」というのがありました。
名所をいろいろ調べてせっかくかるたを作ったのですからそういうのをもう一度活用したり、子ども会で使わせてもらっている淀川河川敷も、何かこれまでと違った活用ができたらと思います。(水本委員)
- アンケートで大阪府の中で高槻市が一番住みやすいところというのを、何かで見たことがあったのですが、高槻市の魅力の一つは山や川があり、自然も豊富で野生のシカやイノシシも出てくるところです。自然が残っていると、すごく魅力に感じますので、河川敷もきれいに整備されているけれども、端っこのほうに、もっといろいろ自然を残す、カヤ等を植えて、絶滅が危惧されるカヤネズミ等をもっと増やして、その情報を発信するという方法もあると思います。自然をできるだけ多く残すというか、作っていくという視点で考えています。淀川、神崎川と水が豊富というのも、大阪の魅力の一つだと思います。
(浅井委員)